

## オオワシつがいが子育て中です！

鳥獣保護舎で飼育中のオオワシつがいが順調に子育てを続けています。今年の2月、飼育ケージの高所に設置した箱形のねぐらの中で雌のオオワシが抱卵をはじめた様子が見られました。この雌は大変高齢なこと、飼育ケージは繁殖を目的としたものではなく常時一般に公開していることなどから、産卵や抱卵が順調にいくかどうかには疑問がありました。しかし、3月8日にはピョピョと孵化直後と思われるヒナの声が聞こえ、4月にはねぐらの中に2羽のヒナの姿を確認することができました。その後、周囲をできるだけ静かに保つなどの配慮をし、朝昼を替って餌を幼鳥に運び続け、6月には大きく育った幼鳥が箱の外に出てくるようになりました。現在もまだ親鳥は見学者を警戒していますが、幼鳥の方はずいぶん馴れてきて、長い時間止まり木に出てその姿を見せるようになっています。

産卵した雌（愛称コロ）は博物館ができる4年前の1974年にウトロで保護された、施設内一番の古株で推定30才。雄（愛称カナヤマ）のほうは1988年金山川で保護された推定16才です。骨折などで自然に返ることができず長く飼育されてきた個体です。オオワシの飼育下での繁殖は国内外の動物園で試みられていますが、1993年に札幌市円山動物園で、2000年には釧路市動物園で繁殖に成功しています。

オオワシは世界に6～7000羽ほどしかいない絶滅危惧種です。飼育個体の増殖には遺伝子の多様性を保つことが重要といわれています。つがいの最初の子であるこの幼鳥達も将来は繁殖用個体として内外の施設の期待にこたえられるかもしれません。（中川元）



大きく育ったオオワシの幼鳥（左の2羽）



7/26 川の生き物観察会



7/31 石をみがいてみよう



8/1・2 朝と夜の昆虫採集と標本作り

### ～ 夏休み体験講座 ～

今年も6回の夏休み体験講座を開催し、たくさんのお子どもたちが参加しました。夏休みもう終わりです。楽しい思い出と、一生懸命作った標本を宝物に、子どもたちはまた元気に学校へ・・・。指導協力いただいた「はた織り会」「斜里川を考える会」「オホーツク昆虫研究会」のみなさん、ありがとうございました。



8/8 海岸の植物採集と標本作り



8/7 はたおり体験



8/6 フライドチキンから骨標本を作ろう

夏の講座で大忙しだった学芸員たち。これからは、特別展の準備でさらに忙しくなります。次号タンネウシでは特別展の内容を詳しくお知らせします。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2003.8.15  
099-4113  
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内  
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257  
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>